



協賛店舗等で特別なサービスが受けられる特典をインセンティブに公共交通の敷居を下げ、利用の促進を図る。市内事業所の御協力のもと、更なる特典制度の導入などインセンティブの拡充を推進する。

### (3) モビリティ・マネジメントの推進

モビリティ・マネジメントとは、交通手段の最適化を図るための取り組みであり、公共交通機関と自動車、自転車などの交通手段を組み合わせることで利便性を高めることができる。既に『シェアサイクル実証事業』による 32 カ所のポートの設置や『置くとバス駐車場』（パーク・アンド・ライド）4 カ所の設置、『乗り換え用駐輪場』（サイクル・アンド・ライド）19 カ所の設置が進んでいる。シェアサイクル事業については、商工会議所が受託する形で取り組んでいるが、引き続き利用促進や広告収入を含めた収益性の向上に努め、本格運行を目指した取組を進めていく。

### (4) バス路線の改善

深刻な運転士不足が続く中、バス路線の便数増や、新路線の設置などは簡単ではないと考えるが、乗り換えのしやすさを考慮した交通結節点機能の確保や快適な待合環境の整備は大切である。

バスの運行状況はバスロケーションシステムにより、現在でも web 経由で確認できる。今後は IC カードの導入など、IT 技術を活用することで、利便性の向上を推進していく必要がある。

### (5) 鉄道路線の改善

JR 山口線の宮野駅以北について、赤字ローカル線として J R 西日本から公表されている。新山口－宮野駅間も含め JR 山口線全体で更なる利用促進が必要。本数を増やすことや、列車の運行時間帯の拡大については困難とは思われるが、利用促進につながるイベント、会議等と関連した取組や利用者のニーズを J R 西日本に伝えていくことは大切と考えている。